

2026年6月5日

韓国・5月インフレ率は前年比+3.1%と約2年ぶりの伸び(Asia Weekly)

～アジア新興国で幅広くインフレ圧力が強まる動きを確認～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/31(日)	(中国)5月製造業 PMI	50.0	50.0	50.3
	5月非製造業 PMI	50.1	--	49.4
6/1(月)	(韓国)5月輸出(前年比)	+53.2%	+20.8%	+48.0%
	5月輸入(前年比)	+50.8%	+22.5%	+16.7%
	(中国)5月 RatingDog 製造業 PMI	51.8	51.6	52.2
6/2(火)	(韓国)5月消費者物価(前年比)	+3.1%	+3.0%	+2.6%
	(インドネシア)5月消費者物価(前年比)	+3.08%	+2.79%	+2.42%
	4月輸出(前年比)	+21.98%	+8.80%	▲3.10%
	4月輸入(前年比)	+22.49%	+3.25%	+1.51%
6/3(水)	(オーストラリア)1-3月実質 GDP(前年比)	+2.5%	+2.6%	+2.5%
6/5(金)	(フィリピン)5月消費者物価(前年比)	+6.8%	+7.5%	+7.2%
	(タイ)5月消費者物価(前年比)	+2.79%	+3.10%	+2.89%
	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	5.25%	5.25%	5.25%
	(シンガポール)4月小売売上高(前年比)	+5.4%	--	+4.6%
	(台湾)5月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.1%	+1.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～5月インフレ率は前年比+3.1%と約2年ぶりの高い伸びに加速、幅広くインフレ圧力が強まる～

1日に発表された5月の輸出額は前年同月比+53.2%となり、前月(同+48.0%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も7ヵ月連続の増加となっており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新している。財別では、中東情勢の緊迫化に伴う供給混乱の影響に加え、米国の関税措置の影響も重なり、主力輸出品である自動車は下振れした。しかし、世界的なAI(人工知能)関連投資の拡大を背景に、半導体やコンピュータ関連の輸出は大幅に増加しているほか、原油価格の高止まりも影響して石油製品の輸出も大きく押し上げられた。国・地域別では、中東向けは頭打ちとなったものの、最大の輸出先である中国向けが堅調に推移したほか、米国向けも大幅な増加が続いている。一方、輸入額は前年同月比+20.8%となり、前月(同+16.7%)から

伸びが加速した。前月比も6ヵ月連続で増加しており、持ち直しの動きが続いている。財別では、原油高を反映して原油や石油製品関連の輸入額が押し上げられたほか、輸出の堅調さを背景に素材や部材関連の輸入も拡大している。その結果、貿易収支は+269.49億ドルと前月(+237.55億ドル)から黒字幅が拡大した。

2日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+3.1%と中銀目標(2%)を上回り、前月(同+2.6%)から加速して2024年3月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.46%と前月(同+0.48%)からわずかに鈍化したものの、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を背景にエネルギー価格の上昇が続いているほか、穀物を中心とする食料品価格の下落にも一服感がみられ、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.5%と中銀目標を上回り、前月(同+2.2%)から加速して2024年2月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.51%と前月(同+0.35%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映した輸送コストの増加に加え、金融市場におけるウォン安の進展を受けた輸入インフレも重なり、幅広い財で価格上昇圧力が強まる動きがみられる。さらに、価格転嫁の進展を背景に一部のサービス価格にも上昇の動きがみられるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図1 KR 貿易動向の推移

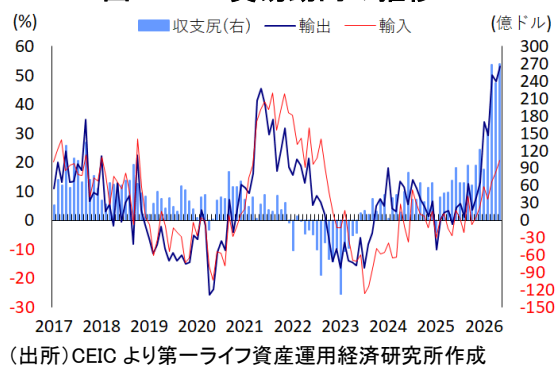
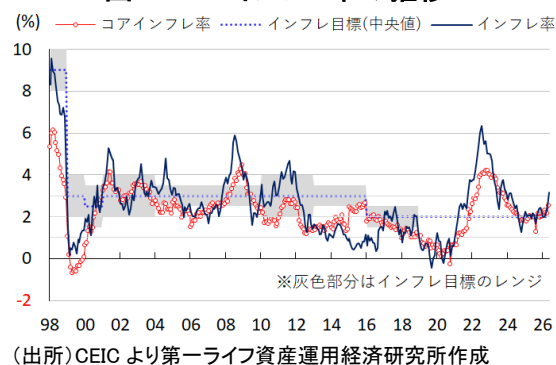


図2 KR インフレ率の推移



[インドネシア]～補助金による燃料価格抑制にもかかわらず、物価上昇圧力は着実に広がる～

2日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+3.08%と、中銀目標(2.5±1%)のレンジ内で推移しているものの、前月(同+2.42%)から伸びが加速した。前月比も+0.28%と前月(同+0.13%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇に加え、中東情勢の緊迫化を受けた原油高の影響もみられる。政府は補助金政策によりガソリンや軽油などの販売価格を抑制している一方、産業向けを中心にエネルギー価格は上昇しており、生活必需品を中心とした物価上昇圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.59%と、総合インフレ率と同様に目標レンジ内で推移しているものの、前月(同+2.44%)から加速し、3ヵ月ぶりの高い伸びとなった。前月比は+0.22%と前月(同+0.23%)からわずかに鈍化したものの、エネルギー価格の上昇を反映した輸送コストの増加に加え、金融市場におけるルピア安を背景とする輸入インフレも重なり、幅広い財で価格上昇圧力が強まる動きがみられる。一方、サービス価格の上昇ペースは比較的抑制されているものの、価格転嫁の動きが広がるなか、インフレ圧力は幅広い分野でくすぶっていることが確認される。

同日に発表された4月の輸出額は前年同月比+21.98%となり、前月（同▲3.10%）から2ヵ月ぶりに前年比プラスへ転じた。当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比も2ヵ月ぶりの増加となり、中期的な基調も拡大傾向へ転じるなど、持ち直しの動きをみせている。財別にみると、中東情勢の緊迫化による供給懸念の高まりを受けて原油輸出を抑制する動きがみられたものの、価格上昇を背景に石油製品や天然ガスの輸出額は押し上げられた。また、原油以外の鉱物資源関連も堅調に推移したほか、パーム油などの農産品や製造業関連の輸出も増加している。一方の輸入額は前年同月比+22.49%となり、前月（同+1.51%）から伸びが大幅に加速した。当研究所の試算による前月比も2ヵ月ぶりの増加となり、中期的な基調も拡大傾向へ転じるなど、持ち直しの動きをみせている。財別では、原油高を反映して原油や天然ガス関連の輸入額が大きく押し上げられた。さらに、食料品や化学製品に加え、電気機械など幅広い分野で輸入拡大の動きが確認されている。その結果、貿易収支は+0.89億ドルとなり、前月（+33.21億ドル）から黒字幅が大幅に縮小した。

図3 ID インフレ率の推移

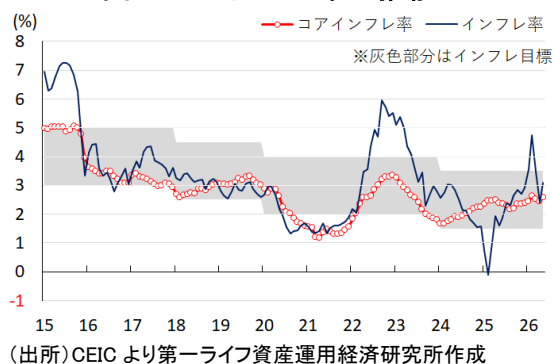
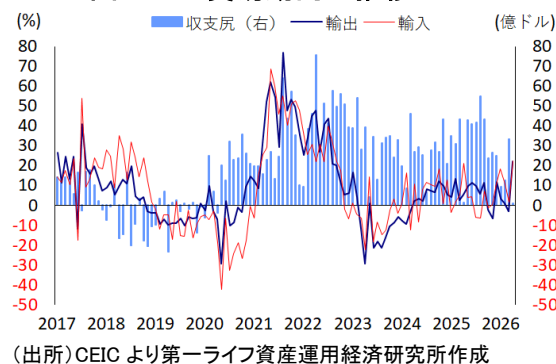


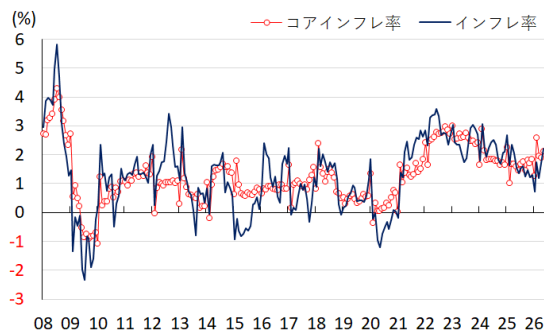
図4 ID 貿易動向の推移



[台湾]～エネルギー価格の上昇一服も、財・サービス全般的にインフレ圧力が強まる動き～

5日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+1.7%）から加速し、2025年3月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.19%と前月（同+0.78%）から伸びが鈍化しており、中東情勢の緊迫化を背景とする原油高を受けたエネルギー価格の上昇は一服する一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇が続いており、生活必需品の価格動向はまちまちとなっている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除くコアインフレ率は前年同月比+2.12%となり、前月（同+1.90%）から加速して3ヵ月ぶりの高い伸びとなった。前月比は+0.13%と前月（同+0.52%）から伸びは鈍化したものの、エネルギー価格上昇に伴う輸送コストの押し上げを背景に、幅広い財価格に上昇圧力がかかる動きがみられる。さらに、価格転嫁の進展を反映してサービス価格も上昇しており、財・サービスの双方でインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図5 TW インフレ率の推移

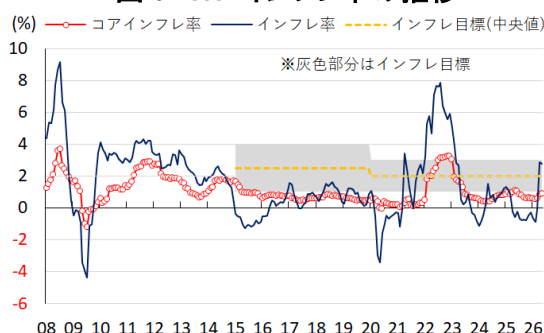


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[タイ]～生活必需品の物価上昇は一服も、幅広く財・サービス全般でインフレ圧力が強まる動き～

5日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+2.79%となり、前月（同+2.89%）から鈍化し、中銀目標（2±1%）のレンジ内で推移している。前月比は+0.17%と前月（同+2.75%）から伸びが鈍化しており、中東情勢の緊迫化を背景とする原油高を受けたエネルギー価格の上昇が一服する一方、生鮮品を中心とする食料品価格も下落しており、生活必需品を中心としたインフレ圧力の後退が影響したとみられる。一方、食料品とエネルギーを除くコアインフレ率は前年同月比+0.92%となり、前月（同+0.83%）から加速したものの、引き続き中銀目標レンジの下限を下回って推移している。前月比は+0.27%と前月（同+0.41%）から伸びは鈍化したものの、エネルギー価格上昇に伴う輸送コストの押し上げに加え、金融市場におけるバツ安を背景とする輸入インフレ圧力も重なり、幅広い財価格の上昇につながっている。さらに、価格転嫁の動きを反映してサービス価格にも上昇圧力が残るなど、財・サービスの双方で基調的なインフレ圧力が強まる動きがみられる。

図6 TH インフレ率の推移



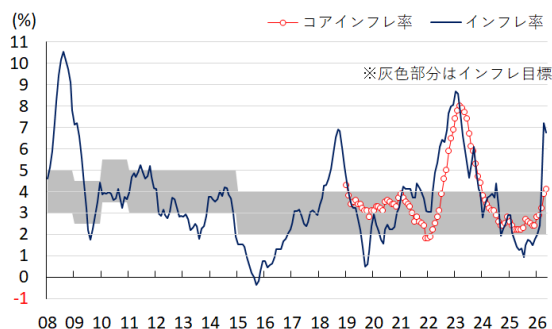
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[フィリピン]～生活必需品で物価上昇一服も、幅広い財・サービスで物価上昇圧力が強まる動き～

5日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+6.8%となり、前月（同+7.2%）から鈍化したものの、3ヵ月連続で中銀目標（2～4%）の上限を上回って推移している。前月比は▲0.51%と前月（同+2.63%）から12ヵ月ぶりの下落に転じた。中東情勢の緊迫化を背景とする原油高を受けたエネルギー価格の上昇に一服感がみられるほか、生鮮品や穀物など食料品価格の上昇も落ち着いており、生活必需品を中心としたインフレ圧力の後退が影響したとみられる。一方、食料品と

エネルギーを除くコアインフレ率は前年同月比+4.1%となり、前月（同+3.9%）から加速したほか、中銀目標レンジの上限を上回り、2023年12月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.30%と前月（同+0.84%）から伸びは鈍化したものの、エネルギー価格上昇による輸送コストの押し上げに加え、金融市場でのペソ安進行に伴う輸入インフレ圧力も重なり、幅広い財価格の上昇につながっている。さらに、サービス価格にも上昇圧力が及んでおり、供給ショックの影響が広範囲に波及している様子が見えてくる。

図7 PH インフレ率の推移

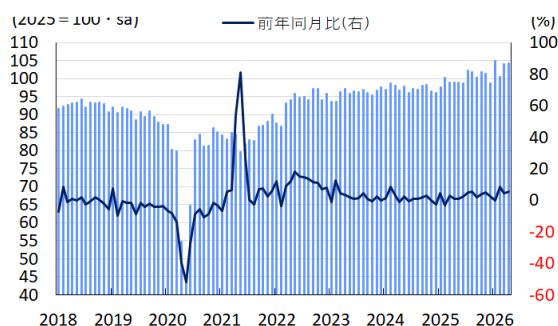


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～高額品や耐久消費財で需要一服も、日用品や生活必需品の需要は持ち直しが続く～

5日に発表された4月の小売売上高は前年同月比+5.4%となり、前月（同+4.6%）から伸びが加速した。前月比は+0.31%と前月（同+3.41%）から2ヵ月連続の増加となっており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きが続いている。同国では月ごとの自動車販売の振れが大きく、小売全体の動向を左右する傾向がある。当月の自動車販売は前月比▲0.50%と、前月（同+6.12%）の増加の反動から2ヵ月ぶりの減少に転じた。一方、自動車を除くベースでは前月比+0.45%と前月（同+2.95%）から2ヵ月連続で増加しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、基調的な需要の持ち直しが続いている。財別では、宝飾品やコンピュータ関連などの高額品のほか、家具など耐久消費財への需要に下押し圧力がかかっているものの、日用品や生活必需品への需要は堅調に推移している。また、娯楽関連などの余暇消費にも持ち直しの動きが確認されている。

図8 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。